

令和2年7月豪雨による現地調査 (熊本県八代市～葦北郡)

令和2年7月豪雨災害により7月4日に被災した国道3号242k700(八代市二見下大野町)の歩道崩壊箇所(片側交互通行)、252k080(海浦トンネル起点坑口付近)の土砂流出箇所(全面通行止め)257k000(佐敷トンネル終点坑口付近)の斜面崩壊箇所(全面通行止め)における現地状況の詳細な把握及び対応策の検討のため、国交省職員及びTEC-Doctorによる現地調査を実施した。
出席者:熊本大学 北園名誉教授 椋木教授

● テックドクターによる調査(令和2年7月5日)



【今回の災害について】

- 1.記録的な集中豪雨による河川水位増水により、歩道崩壊したものと考えられる。(二見下大野町)
- 2.記録的な集中豪雨による雨水流入のため、排水能力を超え土砂流出したものと考えられる。(海浦トンネル起点側)
- 3.記録的な集中豪雨により斜面表層の風化部が不安定化し、斜面崩壊したものと考えられる。(佐敷トンネル終点側)

【対策方法について】

- 1.応急対策として、袋詰め玉石及び大型土嚢により車道の崩壊を防ぎ、安全を確保し、片側交互通行にて交通開放する。
恒久対策として、渇水期に兼用護岸の復旧を行い、歩道復旧を行う。(二見下大野町)
- 2.応急対策として、流出土砂を撤去し、大型土嚢積により土砂流出を防ぎ、安全を確保し、全面交通開放を行う。
恒久対策として、重力式擁壁により土砂の流出を防ぐ。(海浦トンネル起点側)
- 3.応急対策として、崩壊土砂及び流出木を撤去し、仮設防護柵設置により安全を確保し、片側交互通行にて交通開放する。
恒久対策として、斜面の転石を除去し待受け型崩落土砂防止柵の設置にて土砂の流出を防ぐ。(佐敷トンネル終点側)